



大圧協新聞

大阪生コンクリート圧送協同組合

〒552-0007

大阪市港区弁天1-6-8 オレンジビル2F

(TEL) 06-6599-5530 (FAX) 06-6599-5537

(Email) pump@daiatsukyou.com

(URL) http://www.daiatsukyou.com/

11月1日よりコンクリート圧送基幹技能者

制度が発足します。

本年7月、全国コンクリート圧送事業団体連合会(全圧連)は「コンクリート圧送施工技能士」検定試験漏洩にかかる(職業能力開発促進法・秘密保持義務違反)容疑で3名の逮捕者を出し、罰金の略式命令で終わった。この事件は、圧送業界に組織運営の根幹にコンプライアンスを据えることをあらためて決意させた。全圧連は、9月13日新しい会長を選出、再出発をした。

〈あらためての決意〉

大圧協は、前号で声明(深い反省と再生への決意)を出した。さらに、今号で再度触れるのは、お客様(ゼネコン・販売店・エンドユーザー各位)に対するアカウンタビリティがあると考えているから。不祥事として隠すのではなく、自らの社会的責任を明らかにし、今後の方向性を示すことが、お客様への誠意と考える。

全圧連は本来、「良質のコンクリート構造物の提供を目指す」団体である。そのため

「全圧連再生の要にコンプラ

良質のコンクリート構造物の提供という一点をはずすな、建前や名目とするな、本気で正面に位置付けろ、安全施工と技術研究や技能者養成を怠るな、という警告として受け止めている。

の技能者養成であり、試験制度であった。しかし、ゼネコンからの発注を受けるのに、各社に一人でも多くの技能士が在籍していた方が有利と試験制度を営業政策と考える傾向が、こうした事件を生む背景にある。

〈技能者制度の発足〉

イアンスを置いて欲しい」というメッセージを、その悲痛な思いと共に受け取った。

折しも、全圧連は11月1日より、コンクリート圧送基幹技能者制度をスタートさせる。受験資格はコンクリート圧送技能士1級の有資格者、職長教育修了者、実務経験10年以上の者というハードルの高い条件であり、試験の合格基準も厳しくなっている。第三者の「認定委員会」が合否判定を行う。現在の高度化する現場ニーズに見合った技能者として、新たに登場する。ゼネコン各位には「理解と適切な利用をお願いしたい。

〈新会長の交接〉

以上の経緯を踏まえた上で、新会長が選出された。佐藤勝彦会長は、全国の圧送業界の中でトップクラスのヤマコ(及びグループ)の代表であり、昭和41年からポンプ工法を手掛けた草分け的存在である。



全圧連会長
佐藤 勝彦

この度、去る9月13日に開催されました全圧連臨時総会の席上にて、社団法人全国コンクリート圧送事業団体連合会の第5代会長にご指名を賜りました、山形県佐藤勝彦でございます。

長い歴史と伝統に培われ数多くの事業と輝かしい業績を成し遂げて参りました、全圧連の会長職に御推挙を頂きました事は身に余る光榮であります。しかし、その責任の重大さを思う時身の引き締まる思いで一杯でございます。

全圧連及び、専門工事業の一員である会員各位を取り巻く環境を考えると、我が国の経済は一時期の踊り場を脱却して更に成長の度を増していると報じられております。なかんずく株式市場は歴史的な高値を続けており、空前の活況であるとか。更にはIT関連や素材、自動車産業等々、目覚ましい発展を上げている企業が数多く出ております。

反面、建設業界においては総工事は年々共に減少を続け、かつての最盛期の半分近くに縮小しているといわれております。特に公共投資は年率3〜5%づつ削減され、今後数年間は継続されることが決定されていることは衆知の通りであります。

この事は、北海道や東北あるいは九州地区等の一次産業の比率の高い地域では、公共投資に対する依存度が多く、それが全国一律に

削減されていることは、地方経済にとって大きな打撃となって衰退を余儀なくされているのが現状です。

一方において大都会や都市部と地方の格差は拡大の一途をたどり、圧送工事量についてもその差は歴然としており、都市部ではバブル期を凌ぐような需要の高まりがあり、配車に困難を来している状況であります。一方、地方では僅かな発注工事に圧送業者が群がり過激な受注合戦を演じており、売り叩き、安値受注に走り、ついには発注側により指値発注や過度な安全作業や車検点検等の要求となつて、大きくコスト割れを生じております。

更に、最近の原油の異常な高騰による燃料油価格更に圧送部品等の数々に値上げは、もはやコスト吸収力は皆無となり売値への転嫁も至難であります。老朽化の進むポンプ車を抱え、更新の余裕もないまま事業としての存続すら危惧される状況となっております。全圧連として取り組まなければならない課題は山積しておりますが、何から取り組むべきか、どのようにするのか、いつ迄にするのか、もう一度原点に返って検討して行きたいと思っております。

この事は、需要と供給のアンバランスこそが最大の要因であり、今後、早急に対応しなければならぬ大きな問題の一つであると思われまます。

需給構造の改善と業界の秩序の維持こそ喫緊の課題であると思料されるのであります。これらを含めて、多くの課題に対して会員各位よりご意見、ご提言を頂戴して問題解決に積極的に取り組む所存でございますので、皆様にはご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。